土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　その他河川　東江の川通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 構造物基礎

ボーリング名	Bor-1	**調査位置**	広島県呉市川尻町板休地内			**北緯**	34° 14′ 48.8516″
発注機関	広島県西部建設事務所呉支所			**調査期間**	令和5年 7月 3日 ～ 令和5年 7月 6日	**東経**	132° 40′ 45.9727″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 252.80m	**角度**	180°（上）／90°／0°（下）0°	**方位**	北 0°／270°（西）／90°（東）／180°（南）	**地盤勾配**	水平0°／鉛直 90° 0°
総削孔長	12.00m	**使用機種**		**試錐機**	東邦DO	**ポンプ**	東邦BG-3
				エンジン	ヤンマーNFD-12		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
1～9				コンクリート		灰			顕生代	既設堰堤の堤体コンクリート。 局所的に約径1mmの気泡痕が見られるが比較的密に充填されている良質コンクリート。 深度9.25mまで柱状で採取される。 粗骨材は径10～40mmの砂利でコンクリート上部から下部まで比較的均質に分布する。 コンクリート打設境界，粗石周辺の一部で水平～傾斜角20° 程度の割れ目，亀裂が確認できる。 深度0.80m付近，径5mmの金属片混入。 深度3.70m，4.80m，5.70m，7.40m付近，幅2～5mm程度の割れ目発達。 深度6.80m付近，幅2cm程度の空隙有。	07/18 9.30
	243.55	9.25									
10	241.80	11.00	玉石混じり砂礫			淡茶褐	rd5		新生代第四紀	径5～50mm程度の亜角～亜円礫と中～粗砂からなる砂礫主体。 径10～30cm程度の硬質玉石が不規則に混入。全体的に細粒分少量混入。 深度10.90～11.00m間，径6～8cm硬質玉石岩片混入。	
11～12	240.80	12.00		流紋岩		緑灰			中生代後期白亜紀	流紋岩質凝灰岩（軟岩II） コアは柱状で採取されるが，網目状の密着した亀裂，傾斜角約80° の割れ目が全体的に発達する。 割れ目沿いは褐色汚染され脆いが岩片は硬質。全体的に割れ目に沿って粘土細脈発達。 深度11.60～12.00m間，割れ目が多く岩片～礫状コアで採取される。	
13～14											

標準貫入試験

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
107	9.40	14	36	40	50 / 140	140	
750	9.54	50 / 20			50 / 20	20	
	10.15						
	10.17				50 / 0		
	11.00	貫入不能					
	11.00				50 / 0		
	12.00	貫入不能					
	12.00						

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
9.40	P1-9	⊖
9.54		
10.15	P1-10	⊖
10.17		

室内試験　**原位置試験**

削孔月日　7/5　7/8　7/6